

「TOBIRA～明日への扉を開くために」

平成26年4月より、静岡銀行グループは第12次中期経営計画「TOBIRA～明日への扉を開くために」に取り組んでいます。この計画では、第11次中期経営計画で進めた地域密着型金融や生産性向上への取り組みをさらに進展させつつ、静岡銀行グループの将来にわたる持続的発展への土台を築くため、「先進性」や「スピード」を重視し、新たな可能性に果敢に挑戦しています。

1 計画期間 平成26年度～28年度（3年間）

2 基本コンセプト

第12次中期経営計画は、第11次中期経営計画を終えての課題や、産業構造の変化を踏まえ、以下の4つを基本コンセプトとしています。

一層の競争力・プレゼンスの向上

- 先進性やスピードを重視した戦略の展開
- 全国的に通用する競争力の確保

収益機会の創造・新たなビジネスモデルの構築

- 従来の枠にとらわれない新たな収益機会の創造
- お客様の多様化するニーズに応える商品・サービスの提供
- グループ会社を活用した総合的なソリューションの提供

第11次中期経営計画の継承・深化

- 第11次中期経営計画で取り組んだ地域密着型金融や生産性向上への取り組みの深掘り

ステークホルダーの満足度向上

- すべてのステークホルダー（地域社会、お客様、株主、従業員）の満足度向上

3 ビジョン（目指すべきグループ像）

新しい可能性に挑戦する「しずぎん」

ブレイクスルー
行動指針 『Breakthrough』を合言葉に、世界一の地方銀行を目指します。

〈 ビジョン、行動指針に込めた想い 〉

- 地域に根ざした金融機関として、環境の変化をチャンスととらえ、従来の枠にとらわれない新しい発想やプロセスで、これまでの取り組みを強化しつつ、新たな取り組みにも積極的に挑戦し、地域の発展に貢献する
- 従業員一人ひとりが成長への高い意識をもち、自らの行動を見つめ直しながらより高いレベルへと引き上げ、その積み重ねにより、すべてのステークホルダーから選ばれる銀行グループを目指す

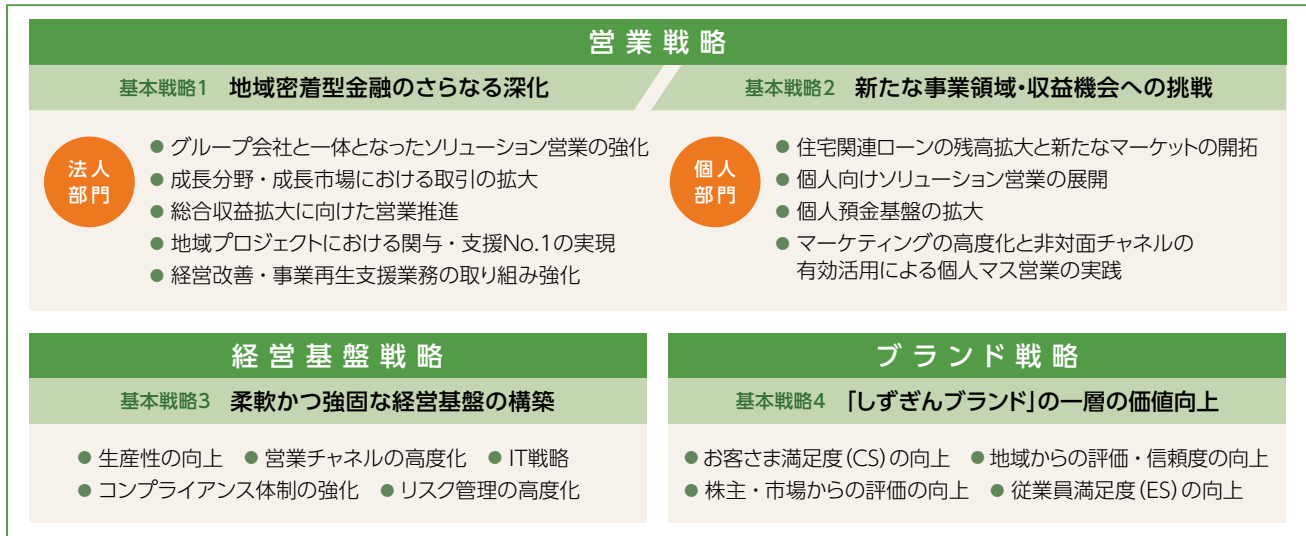
4 目標とする指標

		28年度目標	27年度実績
収益目標	連結経常利益	800億円以上	728億円
	連結当期純利益 ^(※)	500億円以上	479億円
効率性指標	連結ROE（連結普通株式等TierIベース）	6%台	5.85%
	連結OHR	55%程度	54.38%
健全性指標	連結普通株式等TierI比率	14%程度	14.79%
投資家向け指標	株主還元率	中期的に50%以上	43.82%

※親会社株主に帰属する当期純利益

5 基本戦略

第12次中期経営計画では、2つの営業戦略と経営基盤戦略、ブランド戦略をバランスよく推進し、ビジョン「新しい可能性に挑戦する『しずぎん』」の実現を目指します。



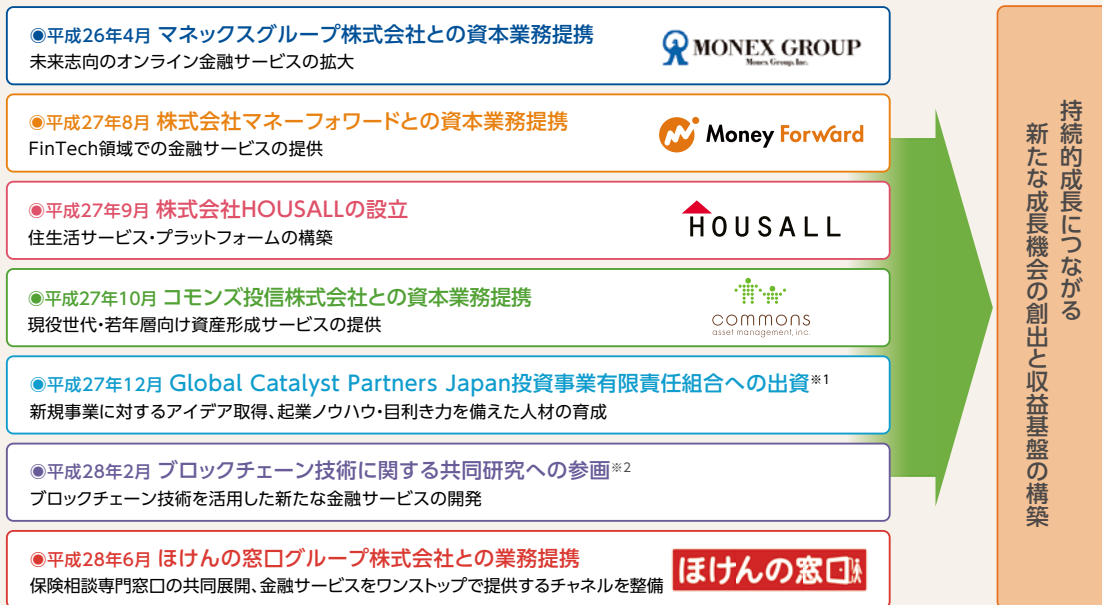
基本戦略の実現に向けた戦略的投資

ビジョン「新しい可能性に挑戦する『しずぎん』」の実現

TOPICS

新たな事業領域への挑戦

静岡銀行グループでは従来の枠組みや発想にとらわれないビジネスの創造を通じ、新たな成長機会の創出に取り組んでいます。



*1 米国シリコンバレーを拠点として世界展開している独立系ベンチャーキャピタル「Global Catalyst Partners」のメンバーが中心となり組成された日本版の新事業創造ファンド「Global Catalyst Partners Japan投資事業有限責任組合 (GCPJ)」に出資。GCPJがもつ新規事業創造力、ハンズオン能力、グローバルなネットワーク力を最大限に活用し、新規事業に対するアイデアの取得や、新規事業の起業から事業化までのノウハウ・目利き力等の習得による人材育成に取り組めます。

*2 オリックス株式会社、オリックス銀行株式会社、株式会社NTTデータ、株式会社NTTドコモ・ベンチャーズとともに、ブロックチェーン技術の活用に関する共同研究を行いました。

業績ハイライト

業績推移

■ 連結

(億円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度比
経常収益	2,209	2,116	2,236	+120
経常利益	747	751	728	▲23
親会社株主に帰属する当期純利益	467	499	479	▲20
自己資本比率(%) ^(注)	16.80	16.45	15.09	▲1.36
普通株式等Tier1比率(%) ^(注)	15.38	15.16	14.79	▲0.37

注:パーゼリ基準

※前年度比は表上で算出しています。

■ 単体

(億円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度比
経常収益	1,861	1,754	1,870	+116
業務粗利益	1,445	1,445	1,454	+9
業務純益	647	630	675	+45
実質業務純益	647	630	659	+29
基礎的業務純益	628	498	546	+48
経常利益	672	671	661	▲10
当期純利益	428	426	440	+14
貸出金	72,408	73,931	76,637	+2,706
預金	82,343	87,151	90,024	+2,873
純資産	7,908	8,915	8,821	▲94
総資産	106,166	111,693	110,850	▲843

※実質業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額

※基礎的業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 国債等債券関係損益

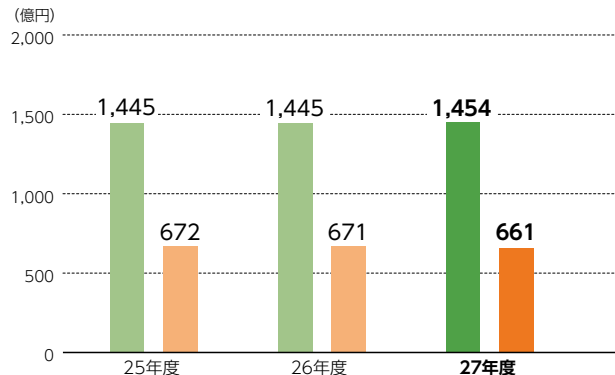
※預金には譲渡性預金を含んでいません。

※前年度比は表上で算出しています。

収益の状況(単体)

平成27年度の業務粗利益は6期振りの増益となりましたが、経常利益は2期連続の減益となりました。

■ 業務粗利益 ■ 経常利益



経営効率の状況(単体)

(%)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度比
ROE(当期純利益基準) ^(注)	5.44	5.06	4.96	▲0.10
ROA(当期純利益基準)	0.42	0.41	0.41	±0
OHR(経費/業務粗利益)	55.19	56.42	54.65	▲1.77
1株当たり当期純利益(円)	67.83	68.46	71.42	+2.96
1株当たり純資産(円)	1,257.62	1,440.68	1,436.53	▲4.15

● ROE [Return on Equity・株主資本利益率]

株主資本を使ってどれだけ利益をあげたか(資本の効率性)を示す指標です。この値が高いほど効率性が高いことを示します。

● ROA [Return on Assets・総資産利益率]

総資産を使ってどれだけ利益をあげたか(資産の効率性)を示す指標です。この値が高いほど効率性が高いことを示します。

● OHR [Over Head Ratio・経費率]

一定の業務粗利益を得るためにどれだけ経費をかけたかを示す指標です。この値が低いほど効率性が高いことを示します。

※前年度比は表上で算出しています。

注:ROE(当期純利益基準)は、平成26年度より自己資本の平均残高を期中平均残高から(期首自己資本+期末自己資本)÷2にて算出する方法に変更し、平成25年度より遡及して適用しています。

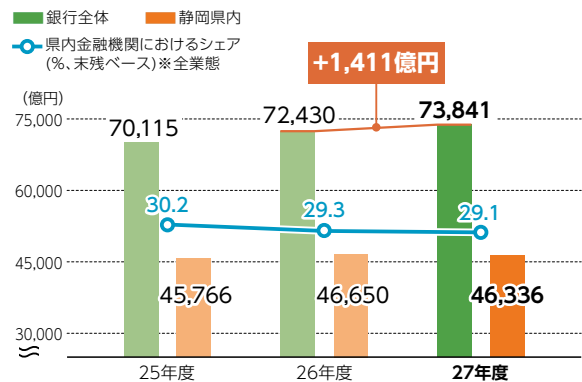
貸出金の状況(単体)

■ 総貸出金残高(平残)の推移

平成27年度の総貸出金の平均残高は前年度比1,411億円(年率+1.9%)増加し、7兆3,841億円となりました。

静岡県内では314億円減少し、4兆6,336億円となりました。

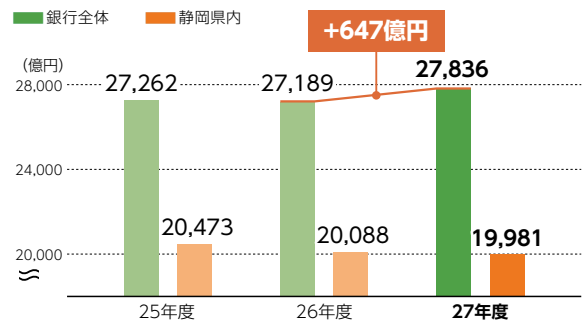
また、平成28年3月末の静岡県内における貸出金シェアは29.1%となりました。



■ うち中小企業向け貸出金残高(平残)の推移

平成27年度の中小企業向け貸出金の平均残高は前年度比647億円増加し、2兆7,836億円となりました。

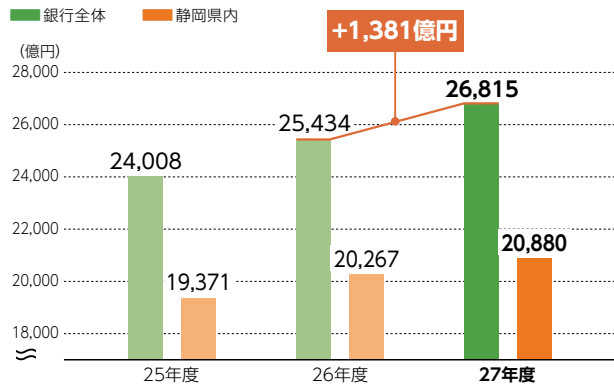
静岡県内では107億円減少し、1兆9,981億円となりました。



※地方公社を含みません。

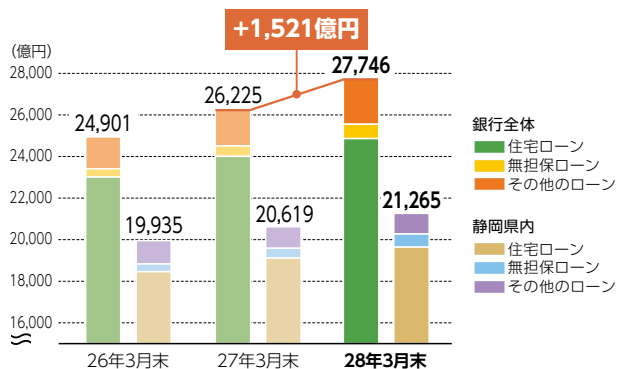
■ うち個人向け貸出金残高(平残)の推移

平成27年度の個人向け貸出金の平均残高は前年度比1,381億円増加し、2兆6,815億円となりました。
このうち静岡県内では613億円増加し、2兆880億円となりました。



■ 消費者ローン残高(末残)の推移

平成28年3月末の消費者ローンの残高は、住宅ローンを中心に平成27年3月末より1,521億円増加し、2兆7,746億円となりました。

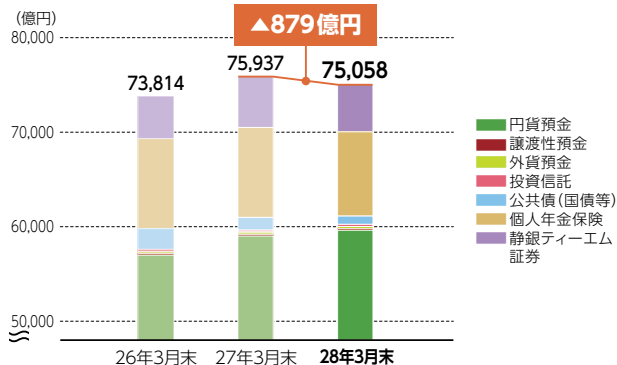


※「住宅ローン」はアパートローンを含みます。
※「無担保ローン」は自動車ローン、教育ローン、趣味と暮らしのローン、フリーローン、カードローンの合計額。「その他のローン」はキャピタルローンなど。

預り資産の状況

■ 個人預り資産残高(末残)の推移

平成28年3月末の静岡ディーエム証券株式会社を含む個人預り資産残高は平成27年3月末より879億円減少し7兆5,058億円、うち円貨預金および譲渡性預金を除く個人預り資産残高は1兆5,265億円となりました。

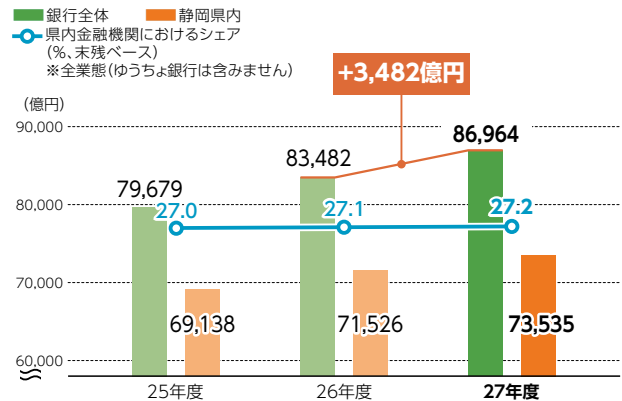


※個人年金保険は現存する契約の時価ベースで記載しています。

預金の状況(単体)

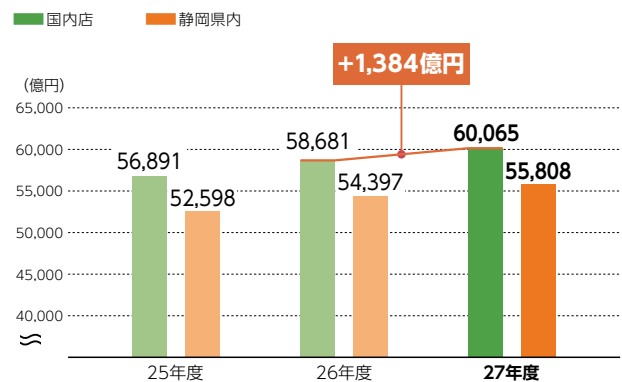
■ 総預金残高(平残)の推移

平成27年度の総預金の平均残高は前年度比3,482億円(年率+4.2%)増加し、8兆6,964億円となりました。
このうち静岡県内では2,009億円増加し、7兆3,535億円となりました。



■ うち個人預金残高(平残)の推移

平成27年度の個人預金の平均残高は前年度比1,384億円増加し、6兆65億円となりました。
このうち静岡県内では1,411億円増加し、5兆5,808億円となりました。



■ うち法人預金残高(平残)の推移

平成27年度の法人預金の平均残高は前年度比705億円増加し、1兆9,722億円となりました。
このうち静岡県内では477億円増加し、1兆6,118億円となりました。

